

第6回（平成24年度）栃木県元気な農業コンクールいきいき農村部門受賞者紹介

☆ 農村活性化の部

(1) 審査経過

今年度の栃木県元気な農業コンクール（農村活性化の部）には各地から7事例の応募があり、いずれも地域の特徴を活かした取組で、地域活性化への熱意や意欲が伝わってくるものでした。

審査委員会では、①自主的努力と創意工夫、②合意形成、③推進体制の整備と運営、④地域農業振興や活性化への寄与の4つの視点から各事例の審査を行いました。この視点にもとづき、5人の審査委員が書類審査による評価・判定を行い、さらに優良地区の現地調査を行い、各賞を決定いたしました。

(2) 受賞組織の概要

● とちぎ元気大賞（栃木県知事賞・関東農政局長賞）

観音山梅の里づくり協議会（市貝町）

村上・駒込の2自治会で構成する協議会を結成し、観音山周辺に梅の木を植栽し、青梅の販売・加工、梅まつりの開催、梅オーナー制度の導入など、幅広く地域活性化のために活動しています。

また、婦人部の活動が活発で、生梅・梅干しの販売だけでなく、加工所において梅ジャム・梅びしょ（調味料）・梅美女（和菓子）等の開発及び販売に積極的に取組んでおり、加工品はイベントなどで販売され、売上げを伸ばし、経済面でも貢献しています。

千手観音など地域の伝統文化を大切にしており、若い住民も含めて、地域が一丸となって活動している。22年という長い期間活動を継続し、さらに内容を発展させている点を高く評価しました。



梅まつり



地元小学生の梅の収穫体験

● とちぎ元気賞（栃木県知事賞）

NPO 法人 太平山南山麓友の会（栃木市）

「地域の自然は自分達で守っていこう」という意識の下に、太平山や地区内の美化活動、トレッキングガイド、ぶどうまつりの開催、オーナー制度など様々な活動に取り組んでいます。

特にオーナー制度「七ふしぎ体験」は、7つの農業体験と旬の味覚が楽しめるグリーンツーリズムを併せており、他にはないユニークな取組みとなっています。

NPOという新しい形態の組織として、しっかりとした推進体制をとり、若い人も加えて地域の特徴を活かしながら幅広い取組を展開している点を評価しました。また、遊休地の土地利用や管理などの面から地域の農業振興も期待されます。



おおひらぶどうまつり



七ふしぎ体験(ぶどうの袋かけ)

● とちぎ元気賞（栃木県知事賞）

きらり佐久山農産物直売所（大田原市）

「安心と親しみを感じる直売所」として直売活動に取り組み、品質向上はもとより、生産履歴、POPの表示、トイレの美化、高齢者への宅配など、消費者に寄り添った直売所の運営を行っています。

県内の直売所が震災や風評被害で売上げが減少する中で、生産者・消費者からの信頼を受け、平成23年度の売上げを対前年比130%へと伸ばしており、また、環境保全への対応として、直売所独自のエコポイントカードにも取り組んでいます。

販売員の教育も徹底しており、レジ横に試食コーナーを設置し、客とのコミュニケーションを図るなど消費者目線を徹底している点が評価でき、昨年からの取り組んでいる高齢者への野菜配達など福祉事業にも期待されます。



手作りの飾り付けで賑わう直売所



高齢者宅への宅配事業

● 特別賞（栃木県農業協同組合中央会長賞）

北郷ふれあいの郷管理運営組合（足利市）

地産地消を目標として、地元小規模農家の生産する野菜や山菜、きのこ等特色のある直売所経営を行っています。加工所では女性を中心にソースカツ丼やまんじゅうなどを生産し、売上げを伸ばしています。また、体験農園を併設し、都市農村交流活動にも取り組んでいます。



年末感謝祭



安全・安心キャンペーン

直売所・加工所が抱える様々な問題を解決するため、取組みを一本化し、多様な交流の取組により、リピーターやファンの確保にもつながっている点を評価しました。

● 特別賞（下野新聞社長賞）

兵庫畑の棚田を守る会（矢板市）

集落の全8戸の農家が共同で農地を保全し、営農を継続するため、中山間地域等直接支払制度を活用して棚田オーナー制度に取り組み、都市農村交流を図るとともに、環境保全や鳥獣害対策にも団結して取り組んでいます。



はざがけの様子



作業後のオーナーとの交流

また、3戸では後継者が就農しており、地域の祭などの伝統を後世に受け継ぐことが出来るようになっています。ふるさとの風景を残すという使命感を持って、全戸で活動に取り組んでおり、家庭的な温かさと独創性がある取組として評価しました。